



習慣化 したいこと

広島大学大学院教授 松本仁志

「しよしゃ体操」で 集中力を高める



まずは、授業の初めに「しよしゃ体操」をすることを習慣化しましょう。

「手元に集中して緊張しながら練習する。」そんなイメージが強い書写ですが、緊張状態が続くとすぐに疲れて集中力の欠如につながってしまいます。字形を意識しながら書くという行為はどうしても体を緊張させてしまうのです。

しよしゃ体操をすると、いい姿勢を維持できるようなになるのはもちろん、書写に必要な筋肉がほぐれ、血の巡りがよくなり、リラックスした状態で授業に臨めます。子どもの様子を見て、授業の途中で取り入れてもよいと思います。

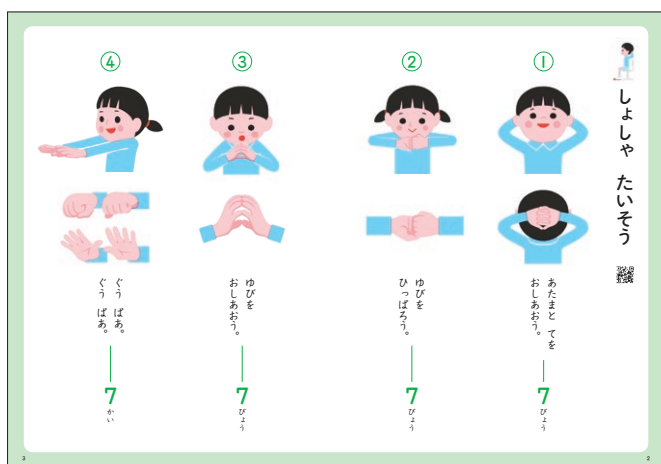
また、「しよしゃ体操」で体を動かすことで、

新連載がスタートしました。教科書で「書写」を効果的に学ぶためのポイントについて、三回にわたってお話しします。

初回のテーマは「習慣化したいこと」。

学習を習慣化することで、子どもの理解が深まり、先生の書写力もアップします。

授業前のザワザワとした気持ち、書写の学習に向いていきます。朝の帯学習の効果に、子



1年p2-3「しよしゃ たいそう」

「学習の進め方」で 学習意欲を持続させる



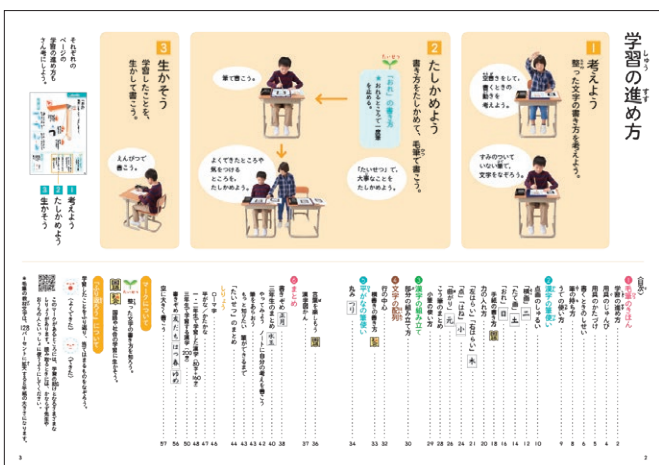
毛筆が始まる三年生のタイミングで「学習の進め方」を意識することを習慣化しましょう。

学習意欲を持続させるには、学びの目的を理解することや、学びの成果を自身で実感することが大切です。そのため教科書では、書写の「学習の進め方」を「考える↓確かめる↓生かす」という、いたってシンプルな構造で捉えています。

まず、学習課題についてしっかりと「考える」ことから入ります。説明を聞いて知るよりも、考えて気づくことの方が理解の定着度が高いことは言うまでもありません。

次に、その気づきを学習課題として、毛筆で「確かめる」活動が続きます。漢字や仮名は、毛筆で書き継がれる中で発達してきた文字ですので、例えば、終筆のとめ、はね、はらいのように毛筆書字から生まれた特徴を多く残しています。毛筆を使用する学習は、毛筆を使用してい

学習の進め方

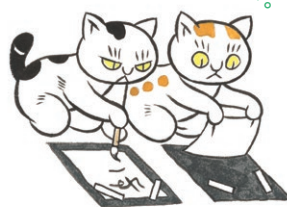


3年p2-3「学習の進め方」

国語等との関連学習で 学びの日常化を図る



書写の学びが日常のどのような場面で生じるのかを仮体験させるのが、国語や他教科との関連学習です。前述の「生かす」の延長線上にある学習活動です。国語との関連学習として例示している「インタビューメモの書き方」(五年)



松本仁志

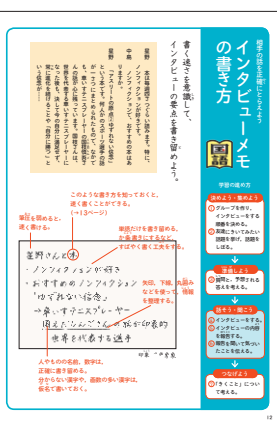
1964年、千葉県生まれ。専門は書写書道教育。光村図書 小・中学校『書写』教科書編集委員。著書に『筆順のはなし』(中央公論新社)などがある。



では、正確に聞き取る力やまとめる力だけでなく「速く正しく書く」という書写力を必要とします。

他教科の関連を示す教材は、一年生から継続的に位置づけていますので、その都度確実に実施して、日常生活や学校生活で行われる言語活動において、書写の学びが生きることを子どもに強く意識づけましょう。そして、子ども自らが書写の学びを日常に開くことを習慣化できるようにしたいものです。

今回のテーマは「思考力をきたえる」です。



5年p12-13「インタビューメモの書き方」